

小学校・第4学年・総合的な学習の時間・やさしいなでしこの町①

育成を目指す資質・能力

熊本市提供

校区の環境について「住みやすい町か」という視点から探究する活動を通して、校区の課題や校区の人たちの思いや願いに気づき、課題の解決方法について自分の生活と関連させて考えるとともに、学んだことを自分の生活に生かそうとする。

ICT活用のポイント

校区の環境を「住みやすい町か」という視点から見て回る際、見つけたものや場所を写真に撮影しておくことで、その後の「整理・分析」がしやすくなる。また、「整理・分析」する際、シンキングツールを活用することで、自分がこれからできそうなことを可視化することができる。

学習の流れ

課題の設定

いろいろな人の立場から「住みやすい町」について考える

情報の収集

「住みやすい町か」という視点で、校区を見て回る

整理・分析

シンキングツールを使って分析

まとめ・表現

地域の人に向けて発信

事例の概要

課題の設定

本課題は、高齢者の体験装具の着用や車椅子体験など、実際に子供たちが不自由さを体験する活動を通じて、「目が不自由な人」「足が不自由な人」「耳が不自由な人」「高齢者」たちにとって、自分たちの町は「住みやすい町なのか」ということを探究するものである。

情報の収集

校区の環境を「住みやすい町か」という視点で見て回る際、見つけたものや場所を写真に撮影しておく。

整理・分析

撮影したものや場所の写真を、シンキングツールの十字チャートを使い、「いいところ」「もう少し」「自分にできる」「自分にはできない」で整理・分析し、自分がこれからできそうなことを可視化する。

まとめ・表現

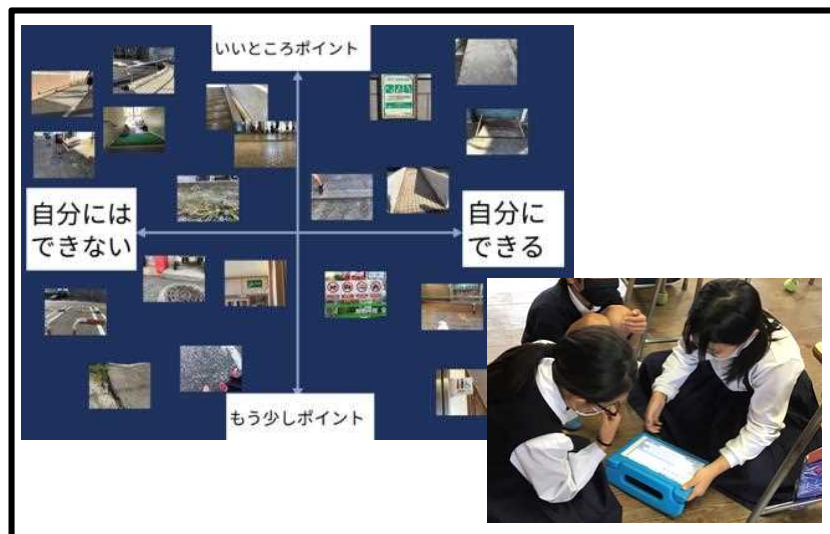
「自分たちにできないことは、地域の人たちにお願ひしてみよう！」という思いのもと、地域の方をお招きして発表会を行う。

小学校・第4学年・総合的な学習の時間・やさしいなでしこの町②

【事例におけるICT活用の場面①】



【事例におけるICT活用の場面②】



ICT活用の場面①

校区の環境を「住みやすい町か」という視点で見て回る際、見つけたものや場所を写真に撮影する。写真で撮影してくることのメリットは、文字でメモをしたりスケッチをしたりすることと比べ、時間がかからないことや、同じ時間の中で、たくさんのもや場所に出会うことができることである。また、ICT端末を使って写真を撮影することにより、文字や絵で表現することが苦手な子供でも、容易に記録を残すことができる。

ICT活用の場面②

場面①で撮影してきた写真をカードにし、シンキングツール（十字チャート）を使って、縦軸を「いいところポイント」と「もう少しポイント」、横軸を「自分ができる」と「自分にはできない」で整理・分析することで、自分がこれからできそうなことが可視化される。場面①で撮影した写真を簡単にカードにできること、画面の上で自由にカードの位置を動かせること、友達同士でICT端末を見せ合いながら対話ができることなど、数多くのメリットがある。

この单元において、ICT端末は、主体的・対話的で深い学びをつくりだすツールとして、とても有効であると考えられる。

【活用したソフトや機能】 カメラ機能、学習支援ソフト（シンキングツール）